

ふるさと

ちい ぎよそん いま うみ わたし としよ
小さな漁村で、「今でも海へ」とたずねる私に、お年寄りは「いや」と

みじか こた うなが こし お いっしょ ゆうひ そ うみ なが
短く答えた。促されてとなりに腰を下ろし、一緒に夕陽に染まる海を眺

めた。しばらくすると「若いころは、船が沈むほどとれた」と重い口が開

いた。「都会で1か月働いて手にする金を、一日でかせいだものだ。その

いきお の さき かんが つづ わか
勢いに乗って、先のことも考えず、とり続けたばかりに」と若いころ

はなし ゆうひ すいへいせん む すがた け さかな き
の話になった。夕陽が水平線の向こうに姿を消すと、「魚も消えたとし、

わか もの なに き い こし
若い者も何もかも消えた」とぼつりと言って、腰を上げた。

のうそん じじょう か やま も
農村でも事情は変わらない。「あの山で、マツタケが持てないほどとれ

た」「タケノコなんか食べ切れなかった」と言うお年寄りがいた。仕事が減

ると、若者は村を離れた。都会で家族を持った者がふるさとに足を運ぶこ

とは、めったにない。残されたのはお年寄りばかり。長く続いてきた祭り

きんじょ みせ まえ き むかし もど おも
も、近所の店も、もうずっと前に消えた。「もう昔には戻れないかと思う

としよ はな
と…」お年寄りも、「さびしくてならない」と話してくれた。

せいふ かそか むら かつせいか ちほうじちたい しえん ちから
政府は、過疎化した村を活性化しようと、地方自治体の支援に力をい

てつだ わたし かそか げんじょうちょうさ いらい
れている。その手伝いで、私は過疎化の現状調査を依頼され、いろい

ところ い おお じちたい わかもの よ もど さまざま
ろな所へ行っている。多くの自治体が、若者たちを呼び戻そうと、様々

ほうほう あたら つく よ いっぽう
な方法で「新しいふるさと作り」を呼びかけている。その一方で、いな

せいかつ わかもの ていねんたいしよくしゃ だいに
かの生活にあこがれる若者や定年退職者に第二のふるさとにしてもら

す しゅうしよくさき じゅんび じちたい
おうと、住まいや就職先まで準備する自治体もある。しかし、いった

せいかつ はじ おお ちいき ね ちいき でんとう
んそこで生活を始めたとしても、多くは地域に根づかない。地域の伝統や

せいかつ にんげんかんけい むら はな
生活、人間関係になじめないまま、村を離れてしまう。

しょうしこうれいか なみ とかい かそか すす むら れいがい およ
少子高齢化の波は、都会にも過疎化の進む村にも、例外なく押し寄せ

いま こうれいかたいさく かそち かつせいかたいさく ておく ちいき
ている。今では、高齢化対策や過疎地の活性化対策など手遅れで、地域

ちか しょうらい ちずじょう き おそ じょうきょう
によっては、近い将来、地図上から消えてしまう恐れさえある状況に

いま て う たいへん わたし しごと
なっている。今、手を打たないことには、大変なことになる。私の仕事

なに み おも ちょうさ ある
で、何かきっかけになることでも見つけられればとの思いが、調査に歩く

わたし あたま かた はな
私の頭を片ときも離れることがない。